

自己評価表

(愛媛県立西条高等学校)

学校番号( 9 )

教育方針	人格の完成を目指し、国家及び社会の有為な形成者として、文化の創造と発展に寄与する人間を育成する。	重点目標	グローバルな視点を持ち、新たな価値を創造する人材の育成 ～それぞれの生徒に、適性に応じた志を持たせ、一人一人を伸ばす教育の推進～
------	--	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
進路実現	1 自分を信じて、粘り強く前に進む力を育成する	明確な進路目標を持ち、実現に向けて努力する生徒 100% A : 100% B : 99~90% C : 89~80% D : 79~70% E : 69%以下	C	生徒の自己評価で、89%の生徒が肯定的な評価となっている。	生徒や保護者に対して提供する進路情報の充実に努め、進路意識の充実に努める。新大学入試制度に対する情報を発信する。
		国公立大学、関関同立・MARCH等の有名私立大学合格者数130名以上 A : 130名以上 B : 129~120名 C : 119~110名 D : 109~100名 E : 99名以下	A	国公立大学 111名 中央大学 1名 同志社大学 3名 立命館大学 11名 関西大学 4名 関西学院大学 4名 計 134名	1年次から継続的な進路指導を行い、高い目標を設定させる。また、ICTを活用した授業の充実に努め、授業改善によって学力の向上に努める。
		旧帝大・早慶等の難関大学および医学部医学科合格者数10名以上 A : 10名以上 B : 9~8名 C : 7~6名 D : 5~4名 E : 3名以下	A	北海道大学 1名 京都大学 1名 大阪大学 2名 神戸大学 3名 愛媛大学(医学部) 1名 富山大学(薬学部) 1名 早稲田大学 1名 計 10名	高い意識を持つ生徒に対して、個別指導を強化、充実して学習指導やマネジメントに努める。
		就職内定率100% A : 100% B : 99~90% C : 89~80% D : 79~70% E : 69%以下	A	・就職希望者10名全員が希望する就職先に就職できた。	・生徒と企業の間ミスマッチが起こらないよう、今以上に様々な機会を捉え、生徒の就職活動を充実させていく。
資格取得	商業各種検定3種目合格者100% A : 100% B : 99~90% C : 89~80% D : 79~70% E : 69%以下	B	・1年生88%、3年生97%が目標を達成できた。 ・2年生は、100%目標を達成できた。	・家庭での学習時間を現状より、1時間以上確保することで、目標を達成できる。 ・部活動と勉強の両立を図る。	
課題研究	2 課題を発見し、科学的に考察する力を育成する	課題研究に積極的に取り組んでいる生徒100% A : 100% B : 99~90% C : 89~80% D : 79~70% E : 69%以下	B	生徒の自己評価で、93%の生徒が肯定的な評価になっている。	課題研究の内容の更なる向上に向けた指導やアドバイスをすることにより、生徒の意欲を高める。
		課題研究を通じて力がついたと感じる生徒100% A : 100% B : 99~90% C : 89~80% D : 79~70% E : 69%以下	C	生徒の自己評価で、86%の生徒が肯定的な評価になっている。	課題研究について、生徒の研究スキルが向上する指導方法の研究に努めるとともに、教員間で共有する体制を整える。
		課題研究 各種コンテスト応募数100以上 A : 100以上 B : 99~90 C : 89~80 D : 79~70 E : 69以下	A	自然科学系 66本 社会科学系 139本 計 205本	大学等と連携することで、教員の課題研究の指導スキルの向上に努めるとともに、生徒の課題研究の質の向上を図る。
		課題研究 各種コンテスト入賞数40以上 A : 40以上 B : 39~30 C : 29~20 D : 19~10 E : 9以下	C	自然科学系 18本 社会科学系 9本 計 25本 全国高等学校総合文化祭自然科学部門優秀賞(地学) STI for SDGs アワード最優秀次世代賞(化学) 他	大学等と連携することで、教員の課題研究の指導スキルの向上に努めるとともに、生徒の課題研究の質の向上を図る。

授業改善	2 課題を発見し、科学的に考察する力を育成する	授業を楽しんでいる生徒100% A : 100% B : 99~90% C : 89~80% D : 79~70% E : 69%以下	D	授業評価の生徒アンケートでは、授業が分かりやすい、力がつく授業と感じている生徒が80%以上であったのに対して、授業が楽しいと感じている生徒は69%であった。	各教科の研究授業や授業参観週間、教科会などを通して情報交換、共有を図り、デジタル教科書の利用を推進するなど、より一層の授業改善を目指す。
		一人一台端末を活用した授業の実践 A : 100% B : 99~90% C : 89~80% D : 79~70% E : 69%以下	C	全教員を対象にEILSやForms等を用いた授業展開の研修を行い、ほぼ9割以上の教員が授業できる状況である。実際に、各教科や課題研究の授業において、生徒はほぼ毎日一人1台端末を活用している。	Wi-Fi環境が十分でない教室があり、一人1台端末を十分活用できない場合があるため、物理的な環境の改善をしたい。また、一人1台端末を活用した授業をさらに充実したものにできるよう研修を行いたい。
読書		読書冊数 年間5冊以上の生徒100% A : 100% B : 99~90% C : 89~80% D : 79~70% E : 69%以下	D	・達成率は73.1%であった。1・2年生の達成率は82.2%なので、3年生は受験勉強に時間を取られ読書の時間が確保できていないのではないかと考えられる。	・読書に関するホームルーム活動を年1回以上実施するとともに、図書委員会の活動をさらに活性化し、各クラスへの読書啓発を行う。 ・「朝の読書」に対する教員の協力を求める。
表現力	3 他者と協働し、新しい価値を創る力を育成する	コミュニケーション能力やプレゼン力が身に付いたと感じる生徒100% A : 100% B : 99~90% C : 89~80% D : 79~70% E : 69%以下	C	生徒の自己評価で、86%の生徒が肯定的な評価になっている。	課題研究発表会やSSH事業を通じてプレゼン力や質疑応答力の向上を図る教育活動を展開する。
		課題研究発表および体験発表者数100名以上 A : 100名以上 B : 99~90名 C : 89~80名 D : 79~70名 E : 69名以下	A	感染症拡大防止のため、ステージの発表やポスター発表の機会が減少したが、リモートでの発表する機会が増加し、参加する生徒が増えた。	来年度は通常の活動ができることを願う。活動が可能になれば、小中学校対象の出前授業などを企画していきたい。
創造力		生徒によるイベント企画件数10件以上 A : 10件以上 B : 9~8件 C : 7~6件 D : 5~4件 E : 3件以下	C	生徒会を中心に、コロナ対策込みでの改善案や新提案を示す傾向が出てきている。	生徒によるイベント企画の実現を重ねながら、もっと欲を持たせたい。
地域貢献	3 他者と協働し、新しい価値を創る力を育成する	地域に貢献する活動に積極的に取り組んでいる生徒100% A : 100% B : 99~90% C : 89~80% D : 79~70% E : 69%以下	B	課題研究の中で市役所等との連携があり、地域に対する関心は高い。地域のボランティア活動等にも熱心な生徒は多い。	近年いい傾向が続いているので、積極的に取り組む生徒100%達成を目指したい。
		地域と連携したボランティア活動参加者数200名以上 A : 200名以上 B : 199~180名 C : 179~160名 D : 159~140名 E : 139名以下	D	参加者数について、掲げた目標に対して十分数字とは言えないが、コロナ禍の中で140名を超える参加があったのはよかったのではないかと。	コロナの状況にかかわらず、より参加者が増えるようボランティア活動の大切さを伝えていきたい。
部活動		県総体出場者数200名以上、 A : 200名以上 B : 199~180名 C : 179~160名 D : 159~140名 E : 139名以下	A	久しぶりに県総体出場者数が200名を超え、インターハイにつながった部もあった。	引き続き充実した部活動を中心掛けたい。
		県高文祭出場者数100名以上 A : 100名以上 B : 99~90名 C : 89~80名 D : 79~70名 E : 69名以下	A	昨年に続き、高文祭出場者数は100名を超え、全国高文祭につながった部もいくつかあった。	引き続き充実した部活動を中心掛けたい。
情報発信	4 学校の情報を積極的に発信する	学校ホームページを毎日1回以上、更新アクセス数1日1000以上 A : 1000以上 B : 999~800 C : 799~600 D : 599~400 E : 399以下	B	更新回数 274回更新 アクセス数 1日平均 877	事業実施者など多くの教職員が発信しやすい仕組みにしたい。ツイッター、インスタグラムなどの活用についても研究し、いろいろな人にアクセスする仕組みを作りたい。
業務改善	5 職場環境の整備を行い、適切な勤務時間とする	職場環境を整備し、時間外勤務上限月45時間・年間360時間を目指し、時間外勤務時間が月80時間を超える教職員をゼロにする。	D	教材研究や部活動指導、さらにはSSHの課題研究や進路指導のため、平均で45時間を超えており、残念ながら80時間を超えている教員も数名いる。	教育に対する熱意を大切にしながらも、45時間以下になるよう、学校行事や会議を見直すとともに、「ノー残業デー」を設定するなどより一層の改善に取り組む。

※ 評価は5段階（A : 十分な成果があった B : かなりの成果があった C : 一応の成果があった D : あまり成果がなかった E : 成果がなかった）とする。